

令和8年度 第1学期始業式（令和8年4月8日）

皆さん、おはようございます。いよいよ令和8年度がスタートしました。

まず、3年生の皆さん。

この1年は、自分自身を鍛え抜き、次なるステージを自らの手で切り拓くための大切な時間です。ここで「やり抜いた」という経験は、一生の宝となり、揺るぎない自信へとつながります。部活動もいよいよ総仕上げです。悔いを残さぬよう、仲間と共に最後まで全力で駆け抜けてください。

次に、2年生の皆さん。

先輩の背中を追う時期は終わりました。今日からは皆さんが学校の「核」となり、全体を牽引する学年です。その自覚と責任を持ち、3年生を支え、1年生をリードしてください。自分を律し、将来を見据えて「今、何をすべきか」を自ら考え、行動に移すことを期待しています。

さて、新年度にあたり、皆さんに一つだけ伝えたいことがあります。

それは、「夢を持ち、自分の可能性を信じて、あらゆることに精一杯挑戦してほしい」ということです。

明治維新の先駆者たちを育てた吉田松陰は、次のような言葉を残しています。

「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。」

この言葉は、全ての出発点は「夢」にあると教えてくれています。夢があるからこそ目標が生まれ、具体的な計画が立ち、実行へとつながります。もちろん、夢があれば必ず成功するとは限りません。しかし、明確な目標を持ち、計画を立てて実行しなければ、決して成功にたどり着くことはできないのです。

今の時点で、まだ夢が明確でない人もいるでしょう。この東高で過ごす時間は、まさにその「夢」を見つけ、育むための貴重な期間です。自分の限界を自分で決めつけることなく、果敢に挑戦してください。

最後に、これからの学校生活で心に留めておいてほしいことがあります。

それは、「他人と比較せず、自分らしくあってほしい」ということです。

私の高校時代は決して順風満帆ではありませんでした。勉強も部活動も中途半端で、大学受験に失敗し、浪人生活も経験しました。部活動では、私のミスで負けてしまった試合もあり、当時は自分の至らない点ばかりが目につき、他人と比較しては落ち込むこともありました。

しかし、今振り返って思うのは、比べるべきは他人ではなく、「昨日の自分」であるということです。今日の自分が、昨日の自分をわずかでも超えられたか。その一步一步に目を向けてください。皆さんは一人ひとりが、計り知れない可能性を持っています。自分の個性、自分自身のカラーを大切に、胸を張って歩んでください。

以上、この1年間で皆さんにとって充実したものになることを強く願い、第1学期始業式の式辞といたします。